

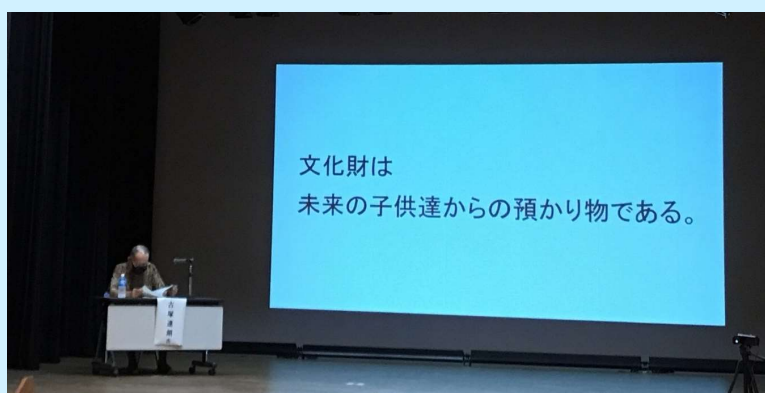
【第3回公開講座 地域資源としての浦添の歴史と文化】

令和4年11月26日土曜日の14時から16時まで、浦添市てだこ市民大学第3回公開講座「地域資源としての浦添の歴史と文化」を実施しました。講師には、琉球歴史文化コンサルティング 代表コンサルタント 古塚 達朗氏(元那覇市市民文化財課長兼歴史博物館長兼壺屋焼物博物館長)をお招きし、浦添市の文化財を地域資源として活用することの可能性についてご講話を賜りました。



【地域資源としての浦添の歴史と文化】

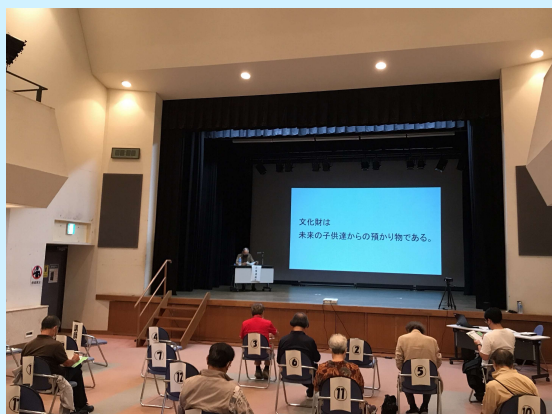
古塚達朗氏より、①牧港テラブのガマ、②浦添グスク跡、③中頭方西海道と安波茶橋、④玉城朝薫の墓などの由来や役割、エピソードなどが語られ、各文化財を地域資源として活用することの可能性についての講話がありました。



最後に「文化財は未来の子供達からの預

かりものである」とし、文化財を**歴史遺産**ではなく、**歴史資産**として捉えて、価値を高めて活用していくことの重要性についての話がありました。

参加者の感想としましては、歴史遺産と歴史資産と命名した発想はとてもよいとの感想や、浦添城跡を核として文化財の位置づけ、今後の展望を、市の発展につながる大きな可能性を感じたとの感想もありました。このように、文化財を地域資源として活用し、市民協働による浦添市のまちづくりと発展について考える機会になりました。文化財を通したまちづくりのあり方についての理解が深まりました。



①ようどれの外観(浦添市教育委員会提供) ②ようどれの近影 ③玉城朝薫墓
④牧港テラブのガマ ⑤安波茶橋 ※特に断りのない限り、古塚達朗氏提供の写真

受講者からの声／

- 浦添と首里の歴史を比較しながら先生の考えを聞くことができた。
- 古塚先生は話題が豊富、楽しかった。

- 浦添の文化財も資産として活用できるようになるといいなと思います。
- 首里が京都であれば、浦添は奈良だと思うのですが、そのような観点から観光にむすびつくような企画。

次回の講座は・・・

「立ち寄りたくなるまちにする！
～首里城とその周辺を事例に～」
1月28日(土)14時～16時